

HACCPを意識した飼養管理に—VSインジェクターの活用—

株式会社フロンティアインターナショナル
HACCPコーディネーター(日本HACCPトレーニングセンター) 押田 明則

HACCP導入の義務化は、2021年6月からスタートしました。

そもそも、HACCP「Hazard(危害)、Analysis(分析)、Critical(重要)、Control(管理)、Point(点)」とは食品安全管理の手法で、1960年代にアメリカの宇宙計画において、宇宙食の開発から始まりました。宇宙に行ってから食中毒になっても、医師もいなければ、治療も出来ません。このような観点から、コーデックス委員会によって策定されたのが「食品衛生の一般原則に関する国際業界標準」と呼ばれています。

農場HACCPは、この従来からのHACCPを応用したもので、如何に畜産現場での疾病、事故を減らし、損失を減らしていくかが重要となってきます。

1. 生産段階におけるHACCPの特性

畜産物の安全性を確保するには、まず農場での畜産資材の管理が重要となってきます。畜産の生産段階におけるHACCPは、汚染のない正常な畜産資材をベースにHACCPシステムがピラミッド状に組み合わせられていなければなりません。これまで食品事故を教訓に食品の原材料を生産する農場側の衛生対策の重要性から、家畜の生産段階においても畜産資材の管理を三角形の土台として位置付けました。

2. 生産段階におけるHACCPのメリット

家畜の生産段階におけるHACCPシステムの適用には、以下のようにメリットがあります。

- (1) 家畜の効果的な健康管理
畜舎環境の清浄化、家畜・家禽の取り扱いの改善、飼育管理者の衛生強化を実現し、家畜の健康を効果的に管理、病気に負けない家畜を飼育できる。
- (2) 安定した生産量の確保
季節変動や各種ストレスを未然に防止して、家畜・家禽の遺伝的能力を十分に発揮させる。飼育管理技術の盤石化により、安定した生産量が確保できる。
- (3) 生産コストの改善
漏れのない衛生管理が定着するので、無駄を省き畜産物の生産コストを低減できる。
- (4) 製品へのクレーム減少
畜産物の品質と安全性の確保が出来るので、畜産物の製品クレームが減少する。万一、問題があった場合には、記録をもとに正しい説明が可能。



農場における原材料、家畜衛生の一般的原則及びHACCPの関係

(5) 情報開示による信頼性の向上

畜産物の安全性が確保できる為、消費者や流通サイドからの信頼性が向上する。中でも、HACCPの骨格とされている手順6の危害分析が重要である。そして、危害分析を正しく行うためには、手順5以前の準備段階が極めて重要です。

3. 畜産農場でのHACCP導入の考え方

畜産農場の現場で働く従業員の方々の経歴、年齢は様々です。まったく動物に触れたことが無い人、また、かつて学生時代に畜産について勉強をされたことがあり、動物の扱いや生態について比較的好くご存知の方、また体力がある方やそうではない方、いろいろな方が集まり、皆が協力しあい努力しています。HACCPは、そのような方々が皆で考え、そして如何にして損失を減らしていくかということが最も重要です。

また、近年では、畜産現場での働き手の確保や、作業の効率化も向上しています。様々な機械化の導入や用いる道具の工夫も必要です。

畜産現場においては、日頃の管理が重要であり、空調管理、環境対策、飼料管理及び給与が大事となってきます。とりわけ、衛生対策も重要で、ワクチンなどの注射の打ち漏らし或いは重複接種などを起こさないことや、子豚へ接種の際、これまで2人で行っていた作業が、1人で完結することが出来れば、農場の作業全体の効率化向上につながるものと思います。

コーデックス委員会のHACCPシステム適用のガイドラインの手順(1997)

手順 1 : HACCP専門家チームの編成
手順 2 : 対象原材料の明確化
手順 3 : 意図する用途と対象消費者の確認
手順 4 : フローダイアグラム(工程一覧)及び製造見取り図作成
手順 5 : フローダイアグラム及び施設の見取り図現場確認
手順 6 : 【原則1】危害分析：危害の評価、危害の防止措置の明確化
手順 7 : 【原則2】フローダイアグラムに沿って重要管理点(CCP)を設定
手順 8 : 【原則3】各CCPにおいて危害を制御するために管理基準を設定
手順 9 : 【原則4】各CCPにおける管理基準にモニタリングを設定
手順 10 : 【原則5】管理基準から逸脱した時の改善措置を設定
手順 11 : 【原則6】システムの有効性を確認するための検証手順を設定
手順 12 : 【原則7】システム実施に係るすべての記録の文書化と保持規定設定

打ち漏らし、重複打ちを防ぐ。さらに1人だけの作業も可能に！

VSインジェクター

(製造元：DATAMARS社製（スイス）輸入・販売元：(株)フロンティアインターナショナル)

注射時に、スタンプで畜体に色で印が付けられる！！



- ・2ml、1mlのチャンバーに交換が可能。どちらの投与量でも対応できます。
- ・1台で20,000～50,000回使用可能です。
- ・スタンプは外付け・交換可能で、1つで約300回使用可能です。
- ・一部の部品は分解して、煮沸消毒が可能ですので、衛生的です。
- ・ニードルガードが付いていますので、安全に使用が出来ます。
- ・部品交換が可能なので、故障箇所のみ交換が出来ます。
- ・HACCPを意識した設計となっています。